

【市議会最前線】市民とつながる議会へ—広聴機能強化の取り組み・栗東市
(滋賀県) 26/04/06 08:00 Nf001

栗東市議会では、市民に開かれ、魅力ある議会を目指し、平成25年に栗東市議会基本条例を施行し、広聴機能の充実に取り組んできました。これまで子ども議会や議会報告会を実施し、市民の声を議会活動に生かす取り組みを進めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の流行により、これまでの事業の実施が困難となりました。

そこで、対面事業の代替として、新たな情報発信に取り組みました。令和2年度には議会の役割を紹介する紙面を作成し、議会だよりと共に配布し、令和3年度には議会紹介動画「議会って何するところ？」を制作し、市内すべての小学校にDVDを配布しました。また、令和4年度には議会報告会「WEBでつなぐオープン・ザ・議会」を映像配信するなど、コロナ禍においても市民との接点を維持する工夫を行いました。

コロナ禍以降は、さらに若い世代への広聴・広報機能の強化を進めるため、令和5年度には議会改革特別委員会の中に広聴・広報部会を設け、子育て世帯を対象としたワールドカフェ形式の議会報告会を開催しました。

さらに令和6年度には、小学生と保護者を対象とした「夏休み親子議会見学ツアー」を初めて実施。議員と一緒にクイズを解きながら議場や議長室、委員会室などを巡る内容で、議会を楽しく学べる企画となり、参加者からは「市議会のことがよく分かった」「普段見られない場所を見学できて良かった」といった声が寄せられ、好評を得たことから、令和7年度も継続して実施しました。



夏休み親子議会見学ツアー

また、令和6年度には、市内の高校生を対象としたワークショップを開催しました。18歳選挙権を踏まえた主権者教育、及び、市や市議会への関心を持ってもらい、若い世代の意見をまちづくりに生かすことを目的に実施したもので、「20年後の未来」「高校生が暮らしやすい栗東市」「滋賀県立聾話学校の生徒が暮らしやすいまち」をテーマに意見交換し、アンケートでは、参加した生徒の9割以上が「議会に関心を持った」と回答しており、将来の政治参加につながることを期待しています。

さらに令和7年度には「栗東の観光資源を生かしたまちづくり」をテーマに、地域で活動するボランティア団体と意見交換を実施し、地域の魅力や課題を共有しました。



ボランティア団体との意見交換

こうした対話の場は、今後の議会活動や政策提案につながる貴重な機会です。本市議会では今後も、市民との対話を重ねながら広聴機能の充実を図り、市民の声を政策へとつなげる議会運営を目指していきたくと考えています。(了)